

| | |
|---------------|---|
| 氏名 仲条幸一 | |
| 所属と職位 | つくば国際短期大学 保育科 講師 |
| 主な資格と学位 | 【資格】 小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状「音楽」、 高等学校教諭専修免許状「音楽」、Apple Distinguished Educator 【学位】 博士（教育学） |
| プロフィール | 【学歴】 筑波大学 人間総合科学学術院 博士後期課程 修了 【職歴】 東京都内小中学校における音楽専科（代替教員）を経て、 現在、つくば国際短期大学附属幼稚園，和光大学現代人間学部， 千葉大学教育学部幼児教育講座の非常勤講師を兼任 |
| 研究分野 研究テーマ | 音楽教育学・教育方法学 サウンドエデュケーション、ICT活用、音楽づくり、即興演奏、作曲・編曲 |
| 主な所属学会 | 日本音楽教育学会、日本保育学会、日本教育方法学会、 全国音楽教育学会、日本乳幼児教育学会 |
| 主な担当科目 | 幼児音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、身体的表現指導法、音楽表現実践演習Ⅰ・Ⅱ |
| 主な著書・ 論文 | <p>【著書】</p> <p>駒久美子・味府美香・木下和彦・寺内大輔編著（2026）『小学校音楽科教育法』（第15章 ICTを活用した授業づくりの一部とコラムを担当） 日本教育方法学会編（2024）『教育方法学辞典』（仲条幸一「ワークショップ」p.146）学文社.</p> <p>島田由紀子・駒久美子編（2024）『子どもの表現 応答性豊かな保育者になるために』（仲条幸一「第6章第1節 環境の音-サウンドスケープとサウンド・エデュケーション」pp.58-61、「第8章第1節 環境の音とICT-環境の音をサンプリングする」pp.76-81、光生館.</p> <p>石井玲子編（2020）『表現者を育てるための保育内容「音楽表現」』（仲条幸一「第9章第1節 ささまざまな楽器を知る」pp.97-98）教育情報出版.</p> <p>【論文】</p> <p>仲条幸一（2026）録音・再生機能をもつ玩具との関わりにみる 1歳前後の児の声の探索的表現 —音楽的営為の初期形成に着目して—日本乳幼児教育学会『乳幼児教育学研究』第34巻，pp.25-34.</p> <p>仲条幸一（2025）「DAWの機能を活用した幼児の音楽づくりに関する活動の構想と実践」筑波大学人間総合科学学術院教育学学位プログラム博士論文，全200頁.</p> <p>仲条幸一（2025）「幼児によるサウンドスケープの記録と共有 —音の作品化を実現するアプリケーションの開発と実践分析—」日本教育方法学会『教育方法学研究』第50巻，pp.169-182.</p> <p>仲条幸一（2024）「日本の小学校音楽科における電子機器導入期の特徴—1989年度から2007年度までの雑誌『教育音楽』小学版の分析」和光大学『現代人間学部紀要』第17巻，pp.101-118.</p> <p>仲条幸一・板橋華子・岡部玲子・山口瑞穂・山本紀乃（2023）「保育学生による「子ども番組」の制作 —TPACKを枠組みとしたICT活用のwell-being的意義」日本音楽教育学会『音楽教育実践ジャーナル』第21巻，pp.65-74.（筆頭著者）</p> <p>仲条幸一（2023）「MIDIを活用した幼児の音楽表現の記録と分析—幼児の姿を読み取る保育者との対話に着目して—」日本教育方法学会『教育方法学研究』第48巻，pp.25-35.</p> <p>仲条幸一（2023）「保育の領域「表現」に「聴く」が与える示唆 ～R. マリー・シェーファーの「サウンドスケープ」を手がかりに」教育方法研究会『教育方法学研究』第19巻，pp.139-151.</p> <p>仲条幸一（2022）「幼児の「身の回りの音をループする音楽づくり」による聴く姿の変容—ループマシンを活用した5歳児の協同的な音楽表現—」日本音楽教育学会『音楽教育学』第52巻第1号，pp.13-24.</p> <p>【研究助成】</p> <p>2022年 第40回公益財団法人カシオ科学振興財団による研究助成採択 2020年 科研費若手研究採択(課題番号20K13944) 2019年 発達科学研究教育センター「発達科学研究教育奨励賞」受賞</p> |
| 主な社会活動 | 2016年から茨城県土浦市の各地区公民館講座を担当 |